



明日へ

学校教育目標

自律:自ら考え、判断し、行動する生徒

尊重:自他を理解し、協働する生徒

創造:健全な精神と豊かな発想で、創意工夫する生徒

学校テーマ

～みんなで創る！ 夢・実現する学校～

戦後80年沖縄戦から学ぶ

『私たちはピース・メッセンジャー』

今年は沖縄戦終戦から戦後80年目を迎えます。

本校では、この戦後80年目の節目にあたり、平和の大切さを発信できる生徒(『私たちはピース・メッセンジャー』)の育成を図るために、5月1日(木)の総合的な学習の時間に各学年ごとに「平和学習フィールドワーク(校外学習)」を計画しています。1年生は「旧海軍司令部壕」等、2年生は「ひめゆり平和祈念資料館」等、3年生は「県立平和祈念資料館」等となっています。

5月1日の「平和学習フィールドワーク」に先駆けて、4月18日(金)に外部講師(安里拓也さん)を招聘して、全学年対象に平和学習会が開催されました。テーマを「戦争の作り方・平和の作り方」とし、私たちが意識しない中で、戦争が作り上げられる様子や、平和は願っているだけではなく行動する意味についても考えさせられました。

〈大切な事をぎっしりメモした1年生のワークシート〉

〈お礼の言葉 加藤にじ さん(3年4組)〉

私は安里さんとのワークショップで次の事が印象に残っています。1つ目は、沖縄戦のねらいが本土での戦争の時間かせぎだったことです。沖縄の沖合からアメリカ軍が攻めてきたにも関わらず、無血上陸をゆるしてしまったその背景には、日本本土の戦争準備の時間かせぎのためだったということに驚きました。そしてアメリカ軍はピクニックの様だったという



発言を残していたことを初めて知りました。

2つ目は、沖縄戦が終わった後でも悲しみは、残り続けていることです。戦争で生き抜いた人々は、戦争終了後にも食料やトラウマなどの問題が多くある中、この話を伝えたりするのもきっと大きな覚悟が必要だったと思います。しかし、話を伝えてくれたおかげで戦争の悲惨さや苦しみを私達が学ぶ事ができ、未来につなげていくことができるので、この話を無駄にしないようにしていきたいです。

今まで私達は、戦争や平和について沢山学んできたつもりでしたが、安里さんの講話のおかげで新しい視点から、戦争や平和について深く学ぶことができました。5月1日の校外学習では、安里さんの講話も踏まえて、各学年が戦争や平和についてさらに学びを深める1日にし、自分達には何ができるのかを考えていきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。

土佐清水市立 清水中学校交流会

4月22日(火)、高知県土佐清水市立清水中学校の2年生と本校の2年生が交流会を実施しました。豊見城市と土佐清水市の両市が「ジョン万次郎」にゆかりのあることで姉妹都市であることから、初めての交流会となりました。

前半部は体育館において、豊崎中代表による歓迎創作ダンスの披露、清水中からは自作曲「清水のおと」の歌の披露がありました。また、両中学校から、沖縄・高知県のそれぞれの紹介をしながら交流する場面もありました。

後半部は2年生の各教室において、沖縄戦に関して、フォトランゲージ(写真を通して考える)による手法で平和学習会を行いました。唯一地上戦が行われた沖縄戦について、清水中の生徒の皆さんも考え深く学ぶ様子が見られました。



〈清水中の皆さんによる歌の披露〉

